

# 佐治川沿いのみなさまへ

～ 異常洪水に備え、身を守る行動を～

鳥取県土整備事務所 佐治川ダム TEL0858-88-0230

佐治川ダムは、昭和40年9月の台風23号による洪水災害を教訓に、洪水調節を主目的として、50年に1度の確率で発生すると予想される規模の洪水に対応できるダムとして昭和47年に完成しました。

ダムを運用開始して50年近く経過し、当初の想定と、実際の川の流れの差異も検証できるようになりました。(ダムより下流の支流から当初想定より多めに流出する傾向があり、50年確率よりも早く氾濫が始まると予想しています。)

一方、近年の異常気象では、全国では50年確率を大きく超える水害が多発するようになりました。

昨年(2023年)の西日本豪雨は200年に1度、一昨年(2022年)の九州北部豪雨は8,000年に1度の豪雨とも言われています。

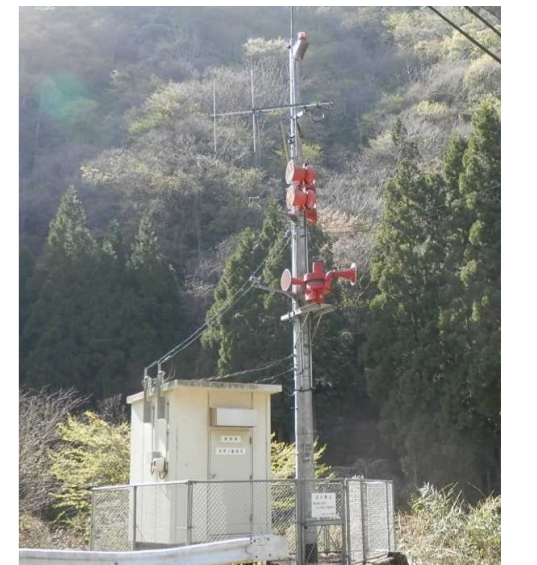
佐治川流域においても、当初に想定した以上の豪雨や異常洪水が、いつ発生してもおかしくありません。

その時に備え、①ダムの効果と限界、②ダム放流警報サイレンの鳴らし方とその意味、③佐治川が氾濫したときの浸水危険マップ(裏面)を参考に、早め早めの避難行動を心掛けてください。

※ 赤いサイレン、スピーカーがダム警報です



※ 赤いサイレン、スピーカーがダム警報です



## ”ダム放流警報サイレン”の意味について

### ① 1回目サイレン …「放流」開始

毎秒80m<sup>3</sup>以下のダムへの流入は、洪水に備えてダムの容量を開けておく必要があるため、ダムに貯めないで放流する。

### ② 2回目サイレン …「洪水」状態になる(毎秒80m<sup>3</sup>以上)

流入量のうち、毎秒80m<sup>3</sup>を超える量の約2/3をダムに貯める「洪水調節」を行います。

※この段階で佐治川の氾濫はありませんが、周辺の土砂崩れや支流の氾濫など、相当な災害の発生が予想されます。

### ③ 3回目サイレン …「氾濫」が始まる(毎秒150~200m<sup>3</sup>以上)

過去実績で毎秒150m<sup>3</sup>程度が佐治川の安全限界と考えています。平成10年の台風10号洪水では、最大流入量が毎秒179m<sup>3</sup>で、下流基準点(小原橋)で氾濫水位を超過しました。

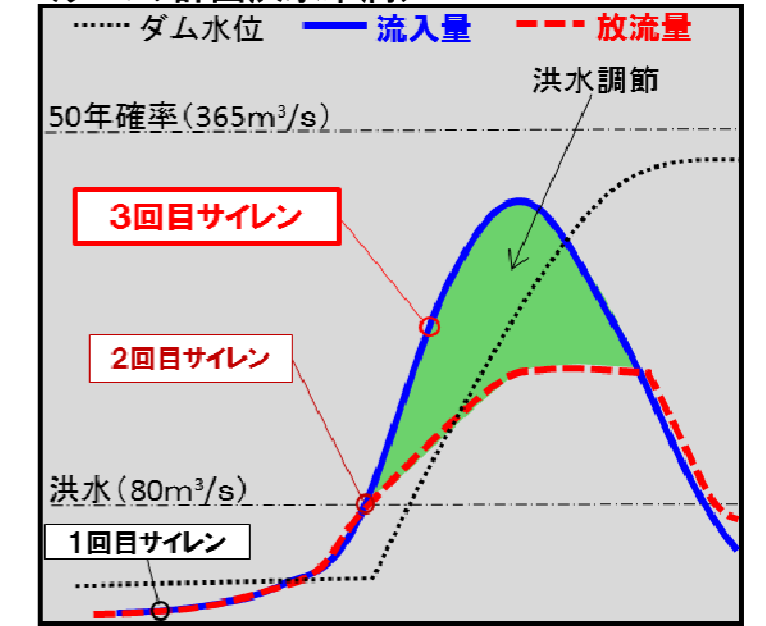
※河本地区、佐治小学校から下加瀬木の間(左右両岸)、旧佐治中学校から刈地橋の間、千代南中学校付近から流しびなの館の間などで氾濫(浸水)が予想されます。

### ④ 4回目サイレン …異常洪水 大規模氾濫 非常事態(毎秒365m<sup>3</sup>以上)

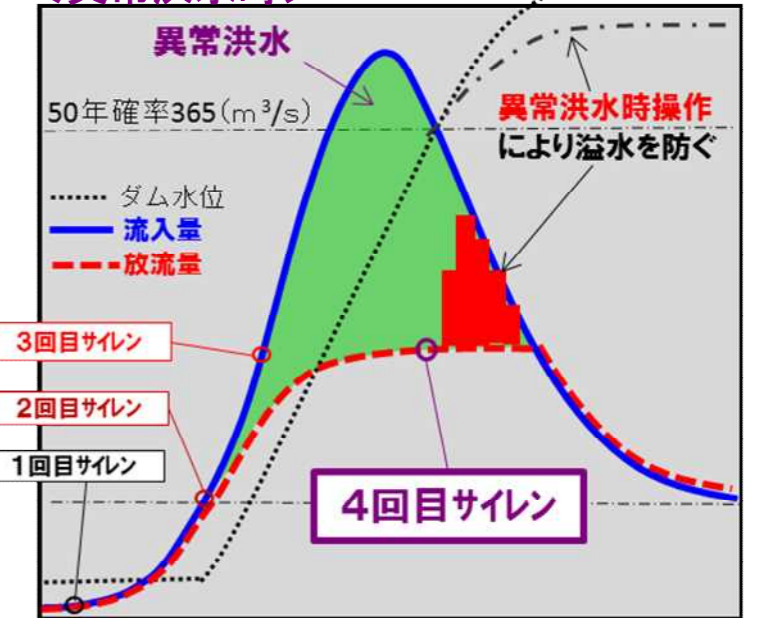
ダムが満杯になると、洪水調節機能がなくなりダムに入る流入量を”そのまま放流”せざる得ない状態。

※「異常洪水時操作」と呼ばれるもので、佐治川全川におよぶ大規模な氾濫と、家屋や橋梁が流失するなどの甚大な災害の発生が予想されます。

### <ダムの計画洪水未滿>

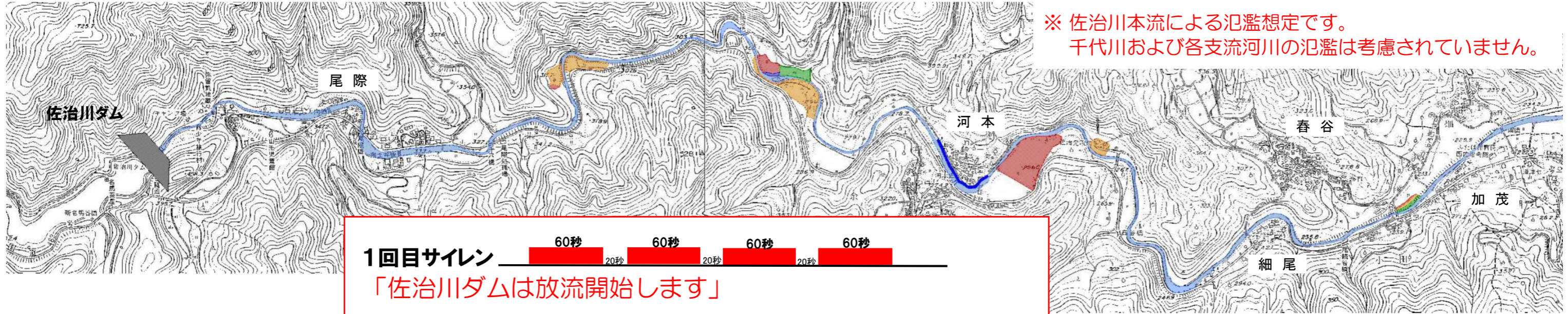


### <異常洪水時>



# 佐治川氾濫浸水の危険度とダムサイレンのめやす

※ 佐治川本流による氾濫想定です。  
千代川および各支流河川の氾濫は考慮されていません。



凡例

- : ダム流入量 80m<sup>3</sup>/sで氾濫する範囲
- : ダム流入量150m<sup>3</sup>/sで氾濫する範囲
- : ダム流入量255m<sup>3</sup>/sで氾濫する範囲
- : ダム流入量365m<sup>3</sup>/sで氾濫する範囲

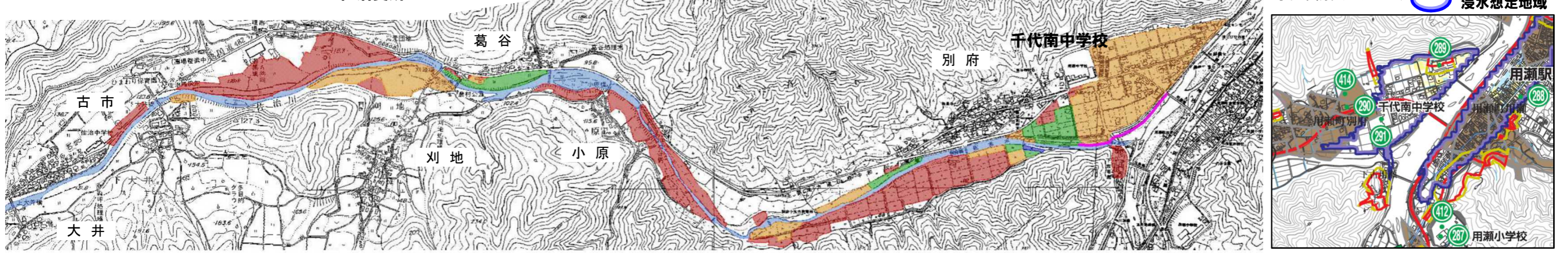
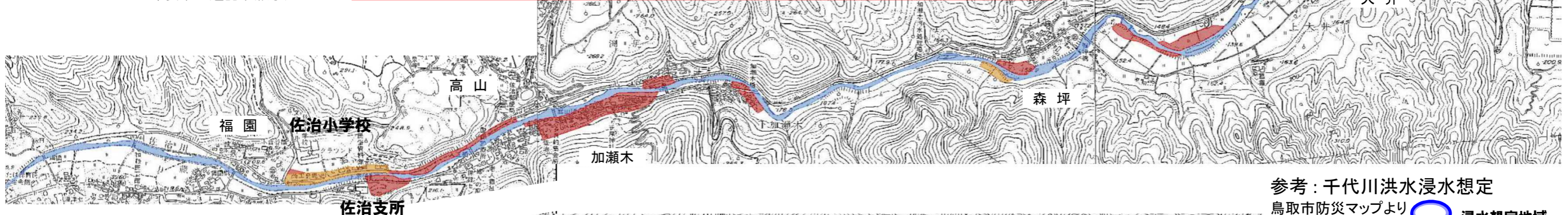
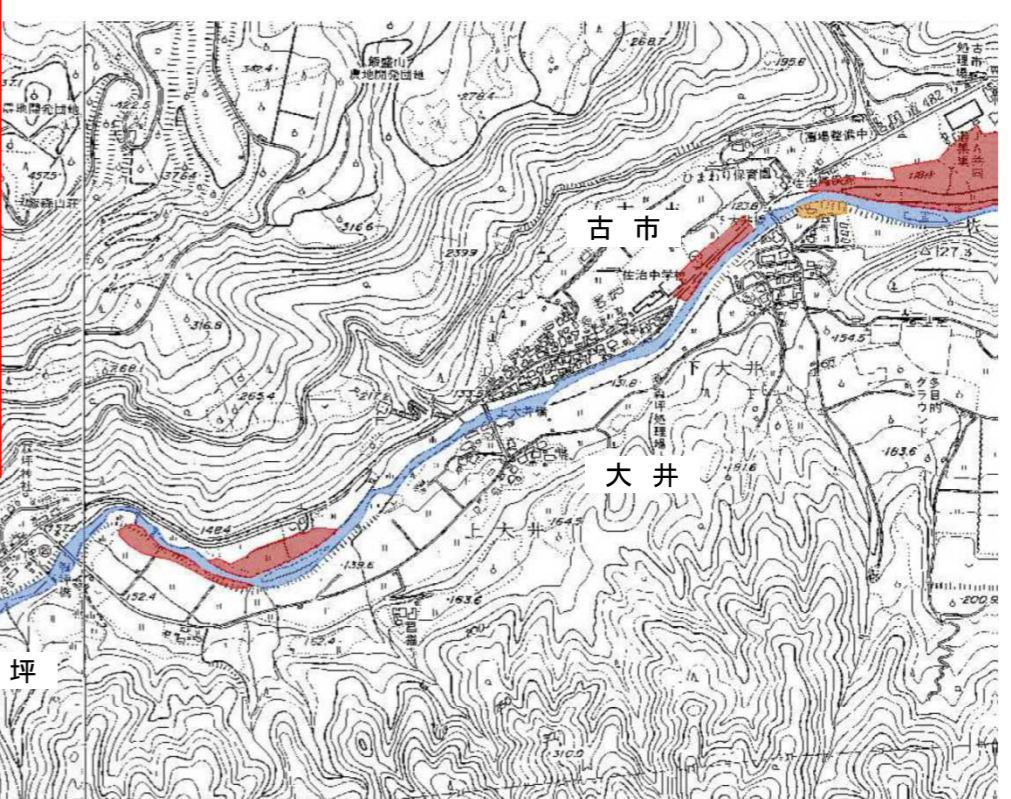
※ 4回目サイレン(異常洪水時操作)後に予想される、大規模な氾濫については表示していません。  
(H31年度中に追記改版予定)

**1回目サイレン**      
 「佐治川ダムは放流開始します」

**2回目サイレン**       
 「佐治川ダムは洪水になりました」

**3回目サイレン**       
 「佐治川で氾濫が始まりました」

**4回目サイレン**       
 「非常事態です。ただちに命を守る行動をとってください」



参考：千代川洪水浸水想定  
鳥取市防災マップより ○ 浸水想定地域

